

いま、ここから、あるきだす。

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
代表 伊藤正俊・中垣内正和
〒170-0002 東京都豊島区東鴨 3-16-12-301 Tel: 03-5944-5250 Fax: 03-5944-5290

http://www.khj-h.com

facebook:http://www.facebook.com/khj_ho twitter:http://twitter.com/hikikomori_khj

旅立ち KHJ NEWS

HIKIKOMORI

- 1面 ▼ 長期高齢化 40代以上の実態把握
- 2面 ▼ 独占インタビュー・川北氏と境氏
- 3面 ▼ 親の高齢化・各地の取組み
- 4面 ▼ 全国 KHJ 支部案内・CRAFT・川柳

長期高齢化40代以上の実態把握へ

「長期高齢化したひきこもり者とその家族への効果的な支援及び長期高齢化に至るプロセス調査・研究事業」報告書

ひきこもりの長期高齢化について、当会はその不安を訴えてきました。地域とのつながりを持たず孤立した家族は、高齢化になるに従い深刻な困窮に陥る可能性があります。病氣、介護、経済的な困窮など、日常生活が追いつめられるまで表面化せず、困つて合っている家族会だからこの使命です。

内閣府調査では空白と

共同代表 伊藤 正俊
中垣内正和

困窮者窓口 40代の相談が6割超え ～息の長い支援体制が重要に～

全国約1300か所の自立相談支援事業の窓口のうち、215か所を抽出し151窓口から回答を得た。そのうち、86・1%でひきこもり事例に関する相談を受けている。年代別では40代に対応した経験のある窓口が最も多く、全体の6割以上に上った(62・3%)。窓口が連携した関係機関として、「ハローワークなど就労関係窓口」(49・0%)、「福祉事務所(生活保護担当部署)」(46・4%)、「行政の障害センター・精神保健福祉センター」(36・4%)が多く挙げられた。その他、高齢者関係の機関・施設など、多岐にわたる窓口や機関との連携が行われている。

その他、「民生委員・児童委員」「社会福祉協議会」「高齢者・介護関係の機関・施設(地域包括支援センターを含む)」など、連携は多岐にわたる。これは、ひきこもりの相談が複合的なニーズに応える必要性を示している。なお、ひきこもりの第一次窓口位置づけられている「ひきこもり地域支援センター」との連携割合は6・6%にとどまった。支援の結果、生



じた変化としては「就労の開始」(40・4%)、「自立意欲の向上・改善」(39・7%)が挙げられた。支援のうえで困難は、本人と会うこと、コミュニケーションの難しさ、問題解決に対する動機付けが高くないことが挙げられた。「利用可能な制度や資源が少ない」という声も少なくなく、今後必要な支援として「居場所」(56・3%)や「家族会・家族教室」(33・1%)などが挙げられている。

ひきこもりは、その期間や年齢が上がるほど、支援への困難や無力感を感じ解決が難しくなる傾向にある。本人や家族のエネルギーの回復も含め個々の実情に合った息の長い支援体制が重要である。しかし、居場所の設置などは必須事業や任意事業に含まれていないのが現状だ。そういった中で効果的な支援を実施していると思われる窓口については聞き取り調査を行っている(北海道、滋賀、大阪、兵庫、北九州)。詳細は報告書に掲載した。

家族会調査 就労のつまずきから長期化する傾向

家族会からは、長期高齢化の傾向にある61事例を提供いただき聞き取り調査を行った。

ひきこもり状態になった年齢の平均は22・9歳。現在の年齢は40代前半が最も多く、家族を含めて、開始から約20年にわたってひきこもりの課題に取り組み続けていることがわかった。現在では社会参加している

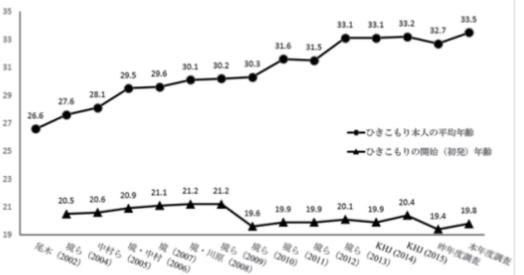
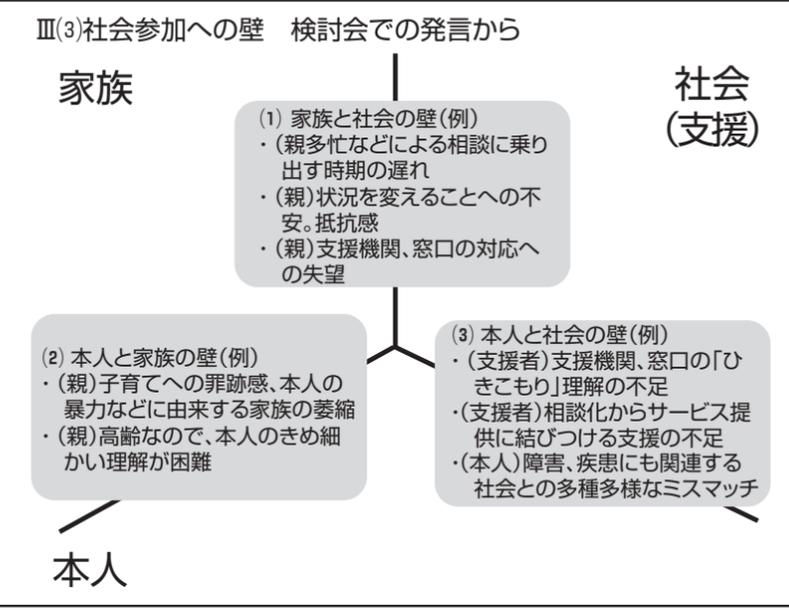
とみなせる例(就労・就学など)は13事例(21・3%)。また、就労経験がある事例は46事例(75・4%)であったが、特に20代前半までにひきこもりが開始されている場合、職場に定着したと考えられる例は少なく、20代の就労で何らかのつまずきを経験し、その後長期にわたってひきこもる例がひとつの典型であると考える

社会参加を阻む障壁

「家族が開く」社会的孤立を生まない取り組みを

ひきこもり状態の解消も課題であるが、たとえひきこもりが継続していても、過度の社会的孤立が生じないような取り組みが必要であり、その妨げになるような「壁」を3通りに分けて集約した(図)。

高年齢の中にあつては、家族だけが本人を支え続けるのではなく、早期に第三者の視点を通して問題を整理し、本人への情報提供ができるようになることがひとつの方策である。狭義のひきこもりの課題だけではなく、幅



不登校・ひきこもりの方も安心

第一学院高校は、「自宅通信学習」で高校卒業できる学校です。

- ▶ iPad® miniを使って学習(無償貸与)。
- ▶ 自宅学習と年1回のスクーリングで高校卒業。
- ▶ メンタル面・進路面のサポートも充実。

※iPadは米Apple Inc.の登録商標です。

生徒第一...だから 通信制高校(広域通信・単位制)

第一学院高等学校

TEL 0120-761-080 www.daiichigakuin.ed.jp

全国50キャンパス(平成27年4月時点)

2004年から、全国の家族会会員、月例会参加者を対象に続けている「ひきこもりの実態調査」。全国規模で長期に渡って行われているひきこもりについての調査というの他に例がなく、年々の調査結果はひきこもり実態に関するアンケート調査報告から

2017年1月にかけて、家族399名、ひきこもり経験者119名に協力をしていただきおこなった。

ひきこもりの平均年齢は33・5歳、家族の平均年齢は64・1歳であり、いずれも

(2)面に続く

40歳以上の事例が全体の25%に及ぶ

2017年1月1日現在、家族399名、ひきこもり経験者119名に協力をしていただきおこなった。

ひきこもりの平均年齢は33・5歳、家族の平均年齢は64・1歳であり、いずれも

多くの家族は病院(65・6%)をはじめ何らかの窓口で相談した経験がある。しかし支援の途絶のエピソードも26事例(44・8%)で確認された。ようやく相談の場に結びついた家族や本人が、途絶することなく支援を受けられるような体制づくりや、途絶した後でも継続的に見守るような体制が重要である。

家族の平均年齢の推移

家族の平均年齢の推移を見ると、2017年の平均年齢は64・1歳で、2016年と比べ上昇しており、これまでの調査で最高年齢となった。家族の平均年齢も本人のそれと同様、上昇を続けている。現時点で定年と考えられる。

を迎える家族が多いというだけでなく、今後さらに定年を迎える家族が増加することが推測される。このことから、ひきこもりの本人や家族が高齢化したケースにおいて、生活困窮を防ぐための対策、あるいは既に困窮化している場合の対策が喫緊の課題であると考えられる。

不登校・ひきこもりの方も安心

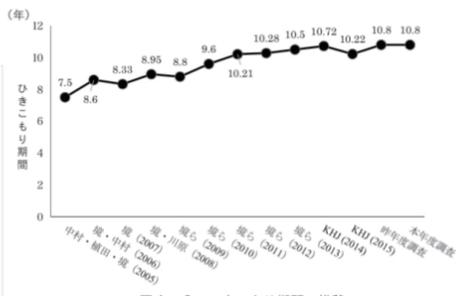
「自宅通信学習」で、高校卒業資格取得!

生徒第一...だから 通信制

第一学院高認予備校

TEL 0120-936-358 www.daiichigakuin-kounin.jp

1面より続く ひきこもりの 平均期間の推移



ひきこもり期間については、2017年の平均は10.8年で、最小が2ヶ月、最大が30年であった。ひきこもり期間についてはここ数年、大きな変化は認められないが、2006年と比べると3・3年増えており、ゆるやかな上昇傾向にある。

40歳以上の事例はひきこもり長期化の傾向に

ひきこもりの高年齢化の影響を調べるために、40歳以上の事例と40歳未満の事例を比較したところ、ひきこもり期間が、40歳未満の事例は約9年、40歳以上の事例は約15年だった。高年齢の事例は、ひきこもり期間が長期にわたることが明らかになった。

調査への御礼

また、家族調査、本人調査ともに、40歳以上の場合は40歳未満の場合よりも、現在および5年後に対する家族の不安が高いことが示された。また、現在に対する不安よりも5年後に対する不安の方が高いことが示された。また、40歳以上の方は40歳未満の方よりも、「自由に外出する」「対人交流が必要でない場所に行く」程度が高く、

【川北准教授】 今回の長期高年齢化調査の 当初の目的は？

内閣府の調査で40代以上の「ひきこもり」事例が対象にならなかったことが注目されていますが、単なる「高年齢ひきこもり」だけでなく潜在的な問題がまだまだ隠れています。「パラサイト・シングル」という言葉が流行して約20年経ち、老後に入っても支えられるのではなく逆に中年の子どもを支えなくてはいけない両親が増えています。

困窮者の相談窓口では80代の親と50代の子どもの組み合わせの相談が「8050（はちまるごうまる）」問題と言われます。また働いていない子ども世代も、介護のために仕事を辞めるなどして経済的に困窮し、「親子共倒れ」になる危機に直面しています。こうした社会全体の高齢化と「ひきこもり」を同時に訴えることで、関係者の本気の対応につなげたいと思っています。

独占インタビュー

ひきこもり調査を担当された川北氏・境氏に訊く

愛知教育大学の川北稔（かわきたみのる）准教授、徳島大学の境泉洋（さかいもとひろ）准教授のお二人に、長期高年齢化調査の所感や、家族会へのメッセージなどをお伺いしました。



結果はどかが特徴的だったでしょうか。
困窮者窓口は年代別に見ると40代に対応したことの

【境准教授】 今年の調査について

2004年から始まった調査が継続できたのも、家族会が評価してくれたおかげだと思っています。国などにいくときには報告書を持って行ってもらいました。エビデンスがあるので説得力があったようです。このよ



今年はお本人の年齢の40歳以上とそれ以下の比較をした結果、40歳以上の人は比較の出歩いていることが分かりました。案外、40歳

ある窓口がすでに最多でした。連携先として、高齢者関係や生活保護の窓口も目立ちます。困窮者窓口は「緊急病棟」といわれるように、経済的困窮など急を要する事例対応に追われますが、一方で今後必要な支援内容として居場所が多く上がっているように、息の長い対応も求められています。

KHJの支部から寄せられた40歳以上の事例についても検討したところ、一度は支援が始まったものの中断された例が約半数にのぼり、相談に有効性を感じて継続するような関係作りが求められています。

これからの支援は困窮者窓口のように、対象を限定せずに相談を受け、あらゆる手段を使って解決する方向に転換していくはず。家族がご本人を支え続けるより、介護をはじめ親自身の生活問題を通じて、早めにSOSを出すほうが解決につながる早道かもしれません。家族会では「ひきこもり」の学習だけでなく、そのよ

**ひきこもり
つながる・
かんがえる
対話交流会**

—対話の力で、何かの変化を起こす種を育む—

これまで家族会が蓄積してきた自立のための支援をしていくことで、福祉で支えなげな生きていけなかった人が、それなしで生活できるようになる。

長期的に関わっていくには、ひきこもり支援に携わる人の身分を保障する必要があります。ひきこもり支援で実績を上げていくところでは、最低3年とかの単位で事業を任せてあげないと、スタッフが育ちません。

第12回 KHJ全国大会in東京 2017

KHJ全国ひきこもり家族会連合会・実践交流研修会

「つながる・生き方の多様性を認められる明日(地域社会)をめざして」

10月28日(土)全体会(於:全体会大田区産業プラザPIO)

10月29日(日)分科会(於:明治大学)

「つなげよう」をテーマとした研修会「長期高年齢化を防ぐための家族会からの提案」を、7月27日(金)に東京都北区の「北とぴあ」で行います。(詳細はHP) 本事業は、2017年度日本郵便年賀寄附金配分の助成を受けて行います。

特定非営利活動法人から・ころセンター

不登校やひきこもりで悩んでいるご本人とご家族の方々に寄り添う活動をしています。
生涯にわたる支援ネットワークの構築を目指しています。

★から・ころセンター 代表 伊藤正俊

〒992-0026 山形県米沢市東2丁目8-116
TEL:0238-21-6436 FAX:0238-27-1303
E-mail:info@npo-karakoro.com

就労継続支援B型事業所

★ワークから・ころ

〒992-1127 米沢市万世町牛森 4150-6
青空みるくセンター2F
TEL:0238-40-8457 FAX:0238-40-8458

★キッチンから・ころ

〒992-1128 山形県米沢市八幡原5丁目4149-8
テクノセンター内
TEL・FAX:0238-28-2527

苦しい親が苦しい人を助けるのは大変なので、良くなつた親が関わってくれること、家族会をうまく機能させるために大切なことだと思っています。

目指す社会について。

ひきこもりの人は、空気が汚れてないか調べるカナリヤみたいで、その時代の害を敏感に感じた人たちが思っています。ひきこもりですが、ひきこもった人達を

受け入れる社会になれば、それは社会が変わった、ということだと思っています。ただ、現実的には、一気に社会を変えるのは難しいので、理解者を1人でも増やしてその人がつながっていければいいかなと思います。

みなさんへメッセージをお願いします。

「あなたは今のままでも十分価値がある!」怖がらないで、みんなで成長を楽しんで行こう!

親の高齢化にどう向き合うか？～各地の取り組みから～

高齢の両親と本人が同居している場合、親の年金で暮らせるうちはいいが、親の病気、介護がのしかかれば、双方の生活は破綻しかねない。深刻な事態に陥る前に何らかの対策を取っておこうと各支部でも取り組みが進んでいる。その一部を紹介する。

●「親亡き後にどう取り組むか」東海なでしこの会 田中 義和

なでしこの会も、2012年調査では当事者の平均年齢が33歳。最年長は50歳を超えています。10年以上のひきこもり期間が59%、30年以上も2%とひきこもり期間も長期化しています。親の平均年齢も父親65・7歳、母親62・6歳です。

この中で大きくなってきているのが、「親亡きあとの問題」です。収入、生活、すべての面で親に依存しているひきこもり当事者にとって、不安の大きい問題です。親にとっても、死ぬまでに我が子が回復して自立した生活ができればと望んでいますが、ひきこもりが長くなると、急な変化や回復も簡単ではない現実があります。「親は元気で長生きしよ

●月例会での学習 まず親自身の老後の問題を考える

ライフプランナーの島中雅子氏に月例会で「親亡き後のライフプラン」についてお話を頂きました。まずは、親自身が老後の生活設計を、明確にしておく。親もいずれは介護が必要になるし、認知症になることもあります。その時にどうするか。介護付き高齢者住宅などで、子どもとの同居の可能性も考える必要があります。その上で親の現在の資産を

洗い出し、老後の生活設計を考える。子どもに残せる金額を出し、相続についての考えを明確にします。相続については、紙面だけでなく兄弟に言葉で伝えておくことが大切。預貯金より保険なら受取人に確実に残すことが出来ます。親が死亡すると、銀行が保険金を預かり、その中から親の指定した通りに分割して本人に支払われる「生命保険信託」もあります。

●ライフプランを考える 楽の会を継続的に開催

楽の会リーラでは、一般財団法人 ゆうちよ財団平成28年度金融相談等活動助成をいただき「ひきこもり・発達障害のライフプランを考える」と題して、各種相談、セミナー、イベントを

ある程度の資産がありライフプランが明確になると、ひきこもり当事者にとって、不安は軽くなります。しかし、資産があまりない場合は、公的な制度を利用することになります。愛知県社会福祉士会の方に講師として来て頂き、生活保護、障害年金、金銭管理のための成年後見制度などについて基本的なことを学びました。

●兄弟姉妹の会 これから先の不安とともに

兄弟姉妹からの問い合わせが増えてきました。KHJ本部では、兄弟姉妹のグループ相談会を毎月または隔月で不定期に行っています。主に30代後半から40代後半の方の参加が多くあります。「今後の生活設計につ

当会活動に理解のあるファインランシヤルプランナー等にご協力をいただき、開催しました。事業を通じて、継続して相談・学べる場を創っていくこと、そのための人材養成が長期高齢化対策テーマになってくるのではないかと感じました。今年度の実績等を踏まえ、平成29年度も継続実施予定です。現在鋭意活動報告書を作成しています。出来次第共有させていただきます。出来次第と考えています。



なでしこの会でも、親同士で相互の家を訪問して、当事者と顔見知りになるところから始めたらしいのではと、話合ったりしています。

輝ける闇の光の中で
著者：山田孝明 寄稿文：俊介
20年にわたる活動の中で若者から俊介の手紙や通信などに掲載された沢手記や体験談を通じて若者達の心の奥底の底にある魂の苦悩と向き合った記録と家族の依頼による、訪問活動を克明に記録。

「親が動かないので自分が動かしにくい。不安と焦りのなかで、情報を求め、別居中のご兄弟から実家のご両親に必要な情報を伝えてもらうこともあります。」
「兄弟には親とは違う親に話したい悩みがある。問題は解決するわけではないけれど、自分と同じような立場の人の話が聴けることで安心する」という感想も多々あります。これから先の不安を抱えながら、兄弟姉妹同士の共感を土台としたケアの場が求められています。各地に兄弟姉妹の会ができることを願います。

(KHJ本部 上田)

KHJ全国ひきこもり親の会連合会
KHJホームページにて販売中!!
イシス出版 605-0028
京都府東山区三条通白川橋東入る2丁目西町151ライファート方
電話：075-751-7276 090-3825-3156
E-mail: isisshuppan@gmail.com

「生活マニュアルハンドブック」づくり 親から子どもへのメッセージ

親亡き後に備えて、当事者に読んでもらうためのハンドブックを作成しました。この冊子には、まずひきこもり経験者へのインタビューを載せました。また、「なでしこの会暮らしのアイデア集」では、「いよいよ生活に困ったら」

では、生活していくために利用できる福祉制度、生活保護や障害年金などについてやさしく解説しました。また「各家庭記入シート」では、月々の生活費(食費・光熱費・家賃など)、銀行などの貯金・生命保険、電気・ガス・水道の引き落とし口座など記入するものを作りました。

最後に親からのメッセージを書き欄をつけました。このハンドブックがきっかけで、親子で親亡き後の話ができればと思います。表紙はなでしこの会の当事者に素敵なイラストを描いてもらいました。この冊子はなでしこの会のHPからダウンロードすることができます。

この中で、日本福祉大学の竹中哲夫氏は、親亡き後の支援として「交流支援者方式」を提案されました。親亡きあとに、衣食住の生活、資産の管理、行政機関への手続きなど、生活していく上で様々な困難が予想されます。ひきこもり当事者は、人との関わりやコミュニケーションに困難を抱えている人が多く、家族以外との関わりがない人も多くいます。

例えば、家の屋根の雨漏りで困った時、市役所に手続きに行く時など様々な場面が想定されます。交流支援者は基本的にはボランティアで、親の会の会員やひきこもり問題に理解のある人などが、その役割を担います。交流支援者は、親が元気になるうちにひきこもり当事者と面談し、関わりを2、3年かけてつくっておき将来に備えます。親の死後は、長期に渡って当事者と関わっていくこととなります。

この「交流支援者」の実現は簡単ではありませんが、親亡き後の支援を検討していく上での道しるべになると思います。当事者への長期の関わり、ひきこもりへの理解が必要などを考えると、親の会などで取り組むことがもともと現実的なように思っています。

NAGAOKA KOKORO CLINIC
ながおか心のクリニック
ストレス外来・ひきこもり外来・アルコール予防外来・摂食障害外来

★KHJ長岡フェニックスの会・家族会、居場所、パティオ、テラコヤ、パソなび、NABA
★断酒ミーティング、外来そく断酒会、外来そくAA
当クリニックは、社会参加を目標にします

〒940-0082 新潟県長岡市千歳1丁目3-42
ながおか心のクリニック 中垣内 正和
TEL: 0258 38 5001
FAX: 0258 38 5002
http://nagakoko.com

愛知県「NPO等が行う生活困窮者等支援事業」
「陸のひとりだけ島」発「新大陸」行
生活マニュアル ハンドブック
～なでしこの会 ひきこもりサバイバル アイディア集～

編集・発行 NPO法人 なでしこの会
協力 生活支援相談ほっとセンター
(一般社団法人 愛知県社会福祉士会)

(http://ndsk2012.sakura.ne.jp/)



なでしこの会でも、親同士で相互の家を訪問して、当事者と顔見知りになるところから始めたらしいのではと、話合ったりしています。

なでしこの会でも、親同士で相互の家を訪問して、当事者と顔見知りになるところから始めたらしいのではと、話合ったりしています。

なでしこの会でも、親同士で相互の家を訪問して、当事者と顔見知りになるところから始めたらしいのではと、話合ったりしています。

【連載】第4回

当事者を元気にする(続き)

徳島大学大学院総合科学研究部 泉洋

前回、望ましい行動がなぜ起こるのかを考える際のポイントを紹介しました。今回はその続きです。紙面の関係もあり、今回は、検討しているエピソードは前号を参照してほしいのですが、考えるポイントについては確認しておきましょう。

①ひきこもり当事者はどんな望ましい行動をしているのか? ②ひきこもり当事者はどんなことがきっかけで望ましい行動をしたのか? ③ひきこもり当事者はどんな気持ちから望ましい行動をしたのか? ④望ましい行動をすることで、ひきこもり当事者にデメリットがないだろうか? ⑤望ましい行動をすることで、ひきこもり当事者にメリットがあるだろうか? ⑥望ましい行動をすることで、ひきこもり当事者が重視しているメリットは何だろうか? ⑦この質問のうち、今回は、④、⑤の答えと①⑤の答えから分かる情報の活かし方について解説していきます。

④については、ちょっとわかりにくいかもしれませんが、親から「これからのことを話しかけられる」のが、お子さんにとつてのデメリットになっていきます。つまり、親はお子さんの望ましい行動に対して、お子さんが嫌がる反応をしていることになり、実は、お子さんの望ましい行動に対してお子さんが嫌がることを家族がすること、お子さんはその望ましい行動をしなくなるということがよくあります。

このように、望ましい行動がなぜ起こるのかを考えると、お子さんの望ましい行動を増やすヒントがたくさん見つかります。このヒントをもとに、望ましい行動を増やすかわりに、望ましい行動を増やすかわりを具体的に考えていくことになります。次号は、望ましくない行動への対応方法について紹介します。

どうかという点です。「家族と一緒に時間が過ごせる」というのは、お子さんの状況によっては、お子さんが重視しているポイントではない可能性もあります。⑤について考える際は、お子さんを主語にして考えることを覚えておきましょう。

前号から検討してきた5つのポイントの情報をどのように活かしていくかを解説したいと思います。まず①については、望ましい行動が生じやすい状況を再現する際に活用します。例えば、夜ご飯の時に野球のテレビを見るようにするといった方法です。②については、望ましい行動を行う前の気持ちに理解を示す際に活用します。例えば、「野球楽しみたいね」、「今日どっちが勝つかね」、「大事な一戦だからわくわくするね」などの声掛けをするといった感じです。④については、お子さんが望ましい行動を行う上で、障害を取り除く工夫をする際に参考にします。今検討しているエピソードの場合は、今の時点では、これからのことを話さないほうがよさそうということがわかりました。⑤については、お子さんが重視しているメリットを提供する関わり方を考える際に活用します。⑤の情報を踏まえて、お子さんが安心して野球を楽しむか、かわり方を考えるのがよさそうかということがわかると思います。

⑤については、いろいろな可能性が考えられます。例えば、野球が見られる、家で自由に動ける、家族と一緒に時間が過ごせる、などです。ただ、ここで一つ注意しなければいけない点があります。それは、お子さんが重視しているメリットなのか

ひきこもり 活かせたら トンネル抜けて 青い空

ひきこもり こだわり捨てて 楽になる



助成金情報コーナー

「原田積善会」助成事業 公益財団法人原田積善会 内容：社会公德心の作興及び地域等の文化の発展、学術研究及び教育、障害者・生活困窮者の支援、児童・青少年の健全な育成、高齢者福祉、教育・スポーツの振興、国際相互理解と平和への貢献、災害救援、功績者の顕彰等のために助成を行う。 助成対象：各地の社会福祉協議会、共同募金会あるいは地方公共団体福祉関係部署等からの推薦乃至紹介があったほうが望ましい。また、本会の運用方針としては使途が一般運営資金というよりも、応募者の行う社会事業にとって必要不可欠と認められる具体的な物品購入とか特定のプロジェクト資金といったほうが望ましい。 2015年度助成実績 369.3万円/84件 応募要領・期間・電話、ファックス等により随時受付。詳しくはHPを参照。 URL: http://www.haradasekizenka.or.jp

月例会に参加して気持ちを楽にしたり情報交換しませんか

☆家族会(月例会)問い合わせ先: KHJ 全国ひきこもり家族会連合会【本部事務局】 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12-301 ☎ 03-5944-5250 FAX 03-5944-5290 E-mail: info@khj-h.com

私たちの会を応援して下さる 賛助会員を募集しています 当会では、ひきこもりを抱えたご家族が孤立しないよう、全国の家族会と連携し、行政に働きかけながら、よりよい支援の実現を目指しています。その活動資金の多くは、皆様からの温かいご支援で成り立っております。是非、私たちの会にご協力をお願いできれば幸いです。お振込先 ゆうちょ銀行:支店名(他金融機関からの場合)〇一九(ゼロイチキョウ)口座記号 00110-6 口座番号 708246 加入者名: NPO 法人 KHJ 家族会連合会

Table with 2 columns: Region (e.g., 北海道・東北ブロック) and KHJ Organization Name/Address/Phone/Fax. Includes entries for 北海道, 青森県, NPO 法人, 宮城県, 石巻まきっこの会, 秋田ばっけの会, NPO 法人から, 認定 NPO 法人, 関東ブロック, 茨城県, NPO 法人, 群馬県, NPO 法人, NPO 法人, KHJ 西東京, グループコスモス, NPO 法人, KHJ 町田家族会, KHJ 神奈川, KHJ 横浜.

Table with 2 columns: KHJ Organization Name/Address/Phone/Fax. Includes entries for KHJ 山梨県, KHJ 長野県, 北陸ブロック, KHJ 長岡フェニックスの会, NPO 法人 KHJ にいがた, KHJ はぁとびあ家族会, とやま大地の会, KHJ 北陸会, KHJ 石川県, KHJ 福井, 東海ブロック, KHJ 岐阜, KHJ 静岡県, NPO 法人, 豊田・大地の会, KHJ 東海 NPO 法人, NPO 法人, KHJ 三重県, 近畿ブロック, 生存協同組合, NPO 法人, NPO 法人, KHJ 情報センター, 兵庫県, KHJ 奈良県.

Table with 2 columns: KHJ Organization Name/Address/Phone/Fax. Includes entries for 中国ブロック, KHJ 鳥取県, NPO 法人, KHJ 広島もみじの会, KHJ 福山, KHJ 山口県, 四国ブロック, KHJ 徳島県, NPO 法人, KHJ 愛媛県, KHJ 高知県, 九州・沖縄ブロック, KHJ 福岡県, KHJ 熊本, NPO 法人, NPO 法人, KHJ みやざき, KHJ 鹿児島, KHJ 石垣.